

「米山奨学制度について」

本日は、米山奨学制度についてお話したいと思います。

正式な名称はロータリー米山記念奨学事業と言います。

ご存じない方もいるかも知れませんが、この事業は国際ロータリーの奨学制度とは全く関係ない事業です。

その歴史は60年以上前にさかのぼります。

「日本のロータリーの父」と言われた米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として、1952年、東京ロータリークラブが始めました。

終戦後7年目ですから、まだまだ日本の経済状況は厳しかったでしょうが、各国に迷惑をかけた太平洋戦争の罪滅ぼしの意味合いもあったと思います。

1952年は丁度、私が生まれた年ですから今年で69年目になります。

大変歴史のある事業といえます。初め、東京ロータリークラブが海外からの留学生を支援する国際奨学事業を始めました。やがて、その事業が日本全国のロータリークラブの共同事業として発展してきたのです。

1967年に文部省(現・文部科学省)を主務官庁とするロータリー米山記念奨学会が設立されました。50有余年の歴史を持ち、世界に類を見ない日本ロータリー独自の多地域合同奉仕活動となっています。

一番の特徴は、その規模です。米山奨学生の採用数は、2020年は883人。

総事業費は15億円(2019-20年決算)でした。世界規模で展開しているロータリー財団国際親善奨学生の年間採用数とほぼ同じです。

これだけの外国人留学生を支援している奨学団体は、他になく日本国内では民間最大規模となっています。これまでに支援してきた奨学生数は累計で 21,634 人(2020 年現在)、その出身国は、世界 124 の国と地域に及びます。

米山学友(元米山奨学生)は母国の大学に戻り日本と各国の架け橋となって活動しています。

また韓国駐日大使やスリランカ警察長官、韓国・台湾のガバナーに就任した人など、世界中で活躍しています。最近、ウサビ・サコ氏が 2018 年に京都精華大学のアフリカ人初の学長となり、話題となりました。

もう一つの特徴は、世話クラブとカウンセラー制度です。

日本には約 2,300 のロータリークラブがあります。

そのうちの1つのクラブが、一人の奨学生の「世話クラブ」となります。

米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席して、ロータリー会員と積極的に交流して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。このように、米山奨学制度は経済的な支援だけでなく、心の通った支援でもあります。中川 尚美カウンセラー有難うございます。

カウンセラーにもメリットがあります。知らない国の人と知り合いになり、米山奨学生を通じてロータリーの奉仕の精神を学ぶことができます。

私も、ネパールの奨学生のカウンセラーになったことがあります。彼が遠くのクラブに卓話に行くとき、私の都合が悪く家内に付いて行ってもらったことがあります。

家族も巻き込んでの、カウンセラー制度ですから、家族にもロータリーへの理解につながりました。

日本独特の奨学制度です。皆様の支援でもっと大きく育てていきたいと思っています。

